

# コムラサキ（黒色型）

チョウ目タテハチョウ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

*Apatura metis substituta* Butler

## 選定理由

褐色型と黒色型の2遺伝型があり、遺伝的に劣性な黒色型の分布は限られる。ほとんど黒色型しか見られない奥能登は、褐色型遺伝子がほとんど存在しない全国的にも特殊な地域である。

## 形態

開張60~70mmの中型種。オスの翅表は黒褐色に白帯があり、見る角度によって黒褐色部分が紫色に輝く。メスはオスと同じ斑紋を有し一回り大きい、紫色に輝かない。

## 国内分布

黒色型は、静岡、愛知、岐阜、長野、富山、石川、九州の熊本県以南などに分布が集中し、褐色型に混じって見られる。

## 県内分布

黒色型は、加賀地方では褐色型に混じって稀に観察される程度であるが、口能登から黒色型の割合が増え、奥能登では逆転して褐色型が稀となる。個体数が多いのは河川沿いで、河原のヤナギ類で発生している。人為的環境にもよく適応し、公園のシダレヤナギや民家のウンリュウヤナギなどでも発生している。

## 生態

年3回発生し、5月下旬から10月上旬まで、河川に沿ったヤナギ類の木の周辺で良く見られる。朝方はヤナギ類の樹液を吸っているが、陽が高くなるとヤナギ類の樹冠をなめるように、枝から枝へせわしげに飛び回る。幼虫は、主に河原のヤナギ類、川沿いの大きくならないヤナギからカワヤナギのように大きくなるヤナギを食し、越冬は樹皮の割れ目や、小枝の分岐点で行われる。

## 生息地の条件

河川周辺にヤナギ類が生えている所。

## 生存の危機

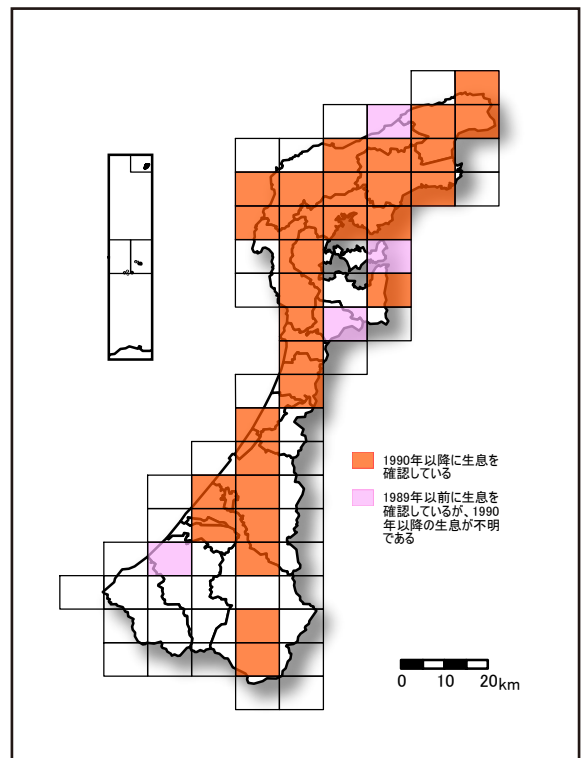
近年、コンクリート護岸工事などの河川改修でヤナギ類が伐採され、奥能登のヤナギ林はほとんど姿を消し、本種は減少している。また、街路樹や公園の樹木に他地域のヤナギ類が植栽されることにより、それに寄生していた褐色型が侵入することが十分考えられる。黒色型遺伝子が減少している現在、わずかな褐色型遺伝子が持ち込まれても、劣性な黒色型は大きな打撃を受けることになる。ヤナギ林の保全はいうまでもなく、褐色型遺伝子を持ち込む恐れのある他地域のヤナギ類は、搬入を控えるべきである。

## 参考文献

福田晴夫ほか 1983. コムラサキ. 原色日本蝶類生態図鑑（Ⅱ）：255-259. 保育社. 大阪.



写真提供者：左合直



県内の分布